



第 74 回（平成 24 年 6 月 13 日）定例会の研究発表要旨

手稲区内の河川に見られる生き物

新発寒 鈴木 玲 氏（手稲さと川探検隊 代表）



北の都札幌市は 185 万人が暮らす大都市で、住みたい町ランキングの常に上位に登場し、「緑が多く自然が豊か」とのイメージがある。しかし実際には、周辺の山地に多くの森林や自然環境が残されているものの、市街地の緑地や自然環境は少なくかつ人工的で、東京と比較しても残念ながら豊かとは言えないのが現状である。

この住宅街を流れる川のうち、割りと流れのある一部の川に僅かに、しかしわりと豊かに自然が残っていることがわかった。ウキゴリ・トウヨシノボリなどハゼ科魚類、ヤマメ（サクラマス）、イバラトミヨ、ハナカジカ、フクドジョウ、スジエビ、モクズガニなど、多くは一生の一部を海で過ごす生きものが、割りと簡単に捕まえることができた。

1. 手稲さと川探検隊の活動

そこで 2004 年の夏から「川の生きもの調べ」を参加者を募って始めた。道工大の河川生態系に関する研究をしていた柳井ゼミの協力も得て、以来継続して実施している。その後、冬には手稲山の林に入り、雪の中の生きもの探しや雪遊び、クラフト体験やタネ拾いなどの森づくり活動を

展開している。

この身近にある多くの生きもの達を育む川と林で、子供も大人も生き物に触れ、遊び、感じ、癒され、育まれるよう、一緒に自然体験をしましょうと呼びかけ、月 1 回程度の活動を行なってきた。現在のスタッフは社会人のボランティア 9 名と学生 2 名、会員は手稲区内を中心に 30 名程、その都度募集する一般参加者とともに以下の自然体験活動や調査活動を楽しんでいる。昨年度は以下のような活動を展開している。

- 4 月 カエル卵ソン：エゾアカガエルの卵の分布調査
- 5 月 野鳥を調べながら山から海へ：カッコウの森から新川河口まで
- 6 月 9 月 川の生きものモニタリング調査 11 月ソーティング
- 6 月 奥手稲山植樹：奥手稲小屋の補修用の作業道の自然復元のため植樹を実施
- 7 月 川の生きもの探し 7 月 川流れと森のコウモリ探し
- 8 月 星置川の数万年 地形体験と模型実験
- 10 月 森でタネ拾いタネ播き
- 1 月～3 月 雪の森で生きもの探し、パラダイスヒュッテに泊まってイグルーづくり

その他、手稲区のタンケンツアーへの協力や、富丘小学校への出前授業なども実施した。

2. 今後の活動について

より多くの人たち子ども達に、この残された自然を知ってもらい、楽しんでもらい、残していきたいと思う。また手稲山麓の緩やかな斜面に広がる林は、都市近郊林としての価値が高いにも関わらず利用しやすくなっていない。企業所有林ではあるが、今後多くの市民が日常的に自然体験や健康増進のために使えるような仕組みづくりを進めていきたいと思っている。また今始めている以下の企画について、皆さんの協力をお願いします。

- 1) カエル卵ソン すっかり減ってしまったエゾアカガエルの生息地（林と池が必要）今の生息地（産卵箇所）を調べるとともに過去のデータも集積中。今後生息地を守り復元していくために、目撃情報・記憶情報をお寄せ下さい。
- 2) 昔の川遊びインタビュー 昔の手稲の川はどんなだったのか？どんな生き物がいて、子ども達はどのようにやって捕まえていたのか？子どもの頃のことを昔の子ども達に今の子ども達がインタビューをして、これからの川づくりを考えていきます。



北海道総合行政情報ネットワークシステムについて

富丘 井塚 重男 氏

平成 4 年から平成 7 年度にかけて構築・整備されました。運用は平成 8 年度より開始されております。ネットワーク通信網には、本庁一総合振興局、振興局、道内市町村、道出先機関（保健所、林務所）、国、全国の自治体などが結ばれております。

特徴は、災害に備えて

- ・地上系通信と衛星系通信の 2 ルート化で構成」されている。
- ・災害情報は受令電話（録音装置付き）、受令 FAX 等で関連箇所へ通知される。
- ・沿岸自治体には気象庁より発令された津波情報は発令後 10 秒以内に津波警報等

緊急伝達音声は受令電話に、文書は受令 FAX に自動的に送信され、同時に津波の大きさ（津波なし、津波、大津波）は沿岸自治体に設置された津波警報表示版のランプ及びブザー音で表示されます。

自治体では、この警報を市町村防災無線設備に付加装置を接続することにより、夜間や無人の場合でもあっても避難等の通報を自動的に住民までに送信することも可能です。

又、同一情報を気象情報衛星「ひまわり」からも受信し信頼性の向上を図っています。

- ・停電時の電源供給について

停電時は瞬時に無停電装置より電力が関連装置に供給されると同時に自家発電機設置局では発電機が起動され無停電装置に電力が供給される。停電復旧時には自動的に自家発電機が停止され通常に通電状態となる。

- ・ネットワーク管理システムについて

地上系及び衛星系、2 系統での監視・制御が可能です。本庁局には 80 インチの大型モニターが設置されており、ネットワーク内の全局の設備を監視・制御することができます。

- ・衛星車載局

ビデオカメラ、編集装置などを備え、災害現場などからリアルタイムな映像発信が出来ます。アナログ及びデジタル映像の送受信・電話・ファックスに使用出来る個別通信回線を 4 回線備えています。

- ・移動局

周波数 150MHz 帯を使用した携帯型の無線局でトールダイヤル方式により、一般の内線電話と接続出来ます。災害現場と災害本部等の通信に使用します。

- ・ホットライン設定機能

災害発生時の災害本部と現地災害本部間で任意の電話番号を指定してホットラインを構成することが出来ます。ホットラインに指定された電話機は電話番号をダイヤルすることなく、受話器を上げるだけで指定された電話機を呼び出すことと通話することが可能です。

原稿執筆に感謝

前号（54 号）より、研究発表者には要旨原稿を執筆いただいております。ご協力いただきありがとうございます。

（広報 小田真二）



次回の手配

次回（8 月 8 日）は、野村武雄会員の「手稲史から特筆すべき事象 …」と後藤嵩和会員の「西国の風土 ～歩き遍路で見えてきたもの～」の 2 つの発表を予定しております。会場は、視聴覚室です。

以上